

## 2021年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究費区分】：研究センター支援

【研究代表者所属】：人文科学研究科

【研究代表者氏名】：阿部 彩

【研究代表者氏名フリガナ】：アベ アヤ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・東京都立大学  
丹野清人（社会学）、堀江孝司、室田信一、小田川華子（社会福祉学）、長沼葉月（ソーシャルワーク学）、酒井厚（児童心理学）、杉田真衣、松下丈宏（教育学）
- ・他大学  
大石亜希子（千葉大学 教授）、藤原武男（東京医科歯科大学 教授）、村山伸子（新潟県立大学 教授）、末富芳（日本大学 教授）、山田壮志郎（日本福祉大学 准教授）、加藤承彦（国立成育医療研究センター 室長）、可知悠子（北里大学医学部 講師）、内藤朋絵（成蹊大学経済学部 講師）、周燕飛（日本女子大学 教授）、
- ・東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター  
川口遼（特任助教）、山本直子（特任研究員）、梶原豪人（RA 当学博士後期課程）

【国外研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・ Peter Saunders University of New South Wales, Professor
- ・ Scott W. Allard University of Washington, Professor
- ・ Jennifer Romich University of Washington, Associate Professor
- ・ Inhoe Ku Seoul National University, Professor
- ・ Julia Wang The University of Hong Kong, Assistant Professor,
- ・ Abigail Davis Loughborough University, Research Fellow,

【研究センター名】：

子ども・若者貧困研究センター

【研究課題名】：

子どもの貧困の地域性：大規模マイクロデータを用いた国内外比較分析

【研究実績の概要】

本研究の目的は、都内における子どもの貧困の地域的分布および地域ごとのおよび特徴を明らかにし、各地域の特性に基づいた子どもの貧困対策を提言することである。2021年度は、本調査の分析に利用する大規模マイクロデータの構築と解析は、これまでに、東京都内9自治体のマイクロデータのDBが完成し、その分析に取り組んでいる。現時点において、世帯の生活困難度、親の就労状況、家族関係、子どもの教育環境、子どもの居場所などについて分析し、図書館、児童館などの地域資源が子どもに及ぼす影響に関する分析を行った。また、地域間格差の日米比較共同研究については、日本側の分析は終了し、アメリカのチームと研究会の準備を進めている。

また、2021年からは喫緊の課題として、コロナ禍の子どもへの影響の分析を行っており、東京都大田区からデータ提供を受け、その実証研究を行っている。結果は、2月に行った公開シンポジウム「コロナ感染症拡大の子どもへの影響」を開催（オンライン）、センター・メンバー及び自治体職員からの報告を行った。参加人数は、171名（うち特別区協議会 27名、官公庁職員 38名、大学・研究機関の研究者 195名、学生・院生 80名、メディア 22名、一般市民 251名、不明 58名）にて報告した。研究成果は3本の論文（1掲載済、2投稿中）や国内・国際学会にて公表（予定含む）されている。また、国際比較としてコロナ禍と格差への影響を分析した結果が2022年度にOXFAMによる出版物として刊行される。

センター内では活発に研究活動が行われており、2021年度は5本のワーキング・ペーパーを公開した。このほか、学術誌への投稿、学会での報告などが活発に行われている。

こうした研究成果を社会へ還元するための方策として、当センターでは、毎月定例学術研究会を開催している。2021年度は、昨年度に引き続きオンライン開催にて計7回開催した。

#### 【学会発表（発表題目，発表大会名，年月）】口頭発表（国内会議 2 件、国際会議 2 件）

- ・ Abe, Aya (2021) ‘The Effect of the COVID-19 Pandemic on Poor Children in Japan’ in The 17th East Asian Social Policy Research Network Annual Conference 2021, 2021年7月(オンライン開催)
- ・ 山本直子 (2021) 「新型コロナウイルス感染拡大が外国ルーツの世帯へ及ぼした影響」カルチュラルタイフーン 2021、2021年6月（オンライン開催）。
- ・ 阿部彩 (2021) 「日本の相対的貧困と子どもの健康格差」第68回日本小児保健協会学術集会 分野シンポジウム「コロナ禍での経済危機と子どもの貧困」、オンライン、2021/6/18-20. 招待
- ・ Abe, Aya (2021) “The Effect of the COVID-19 Pandemic on Poor Children in Japan,” The 27th Annual Conference of the Foundation for International Studies on Social Security & The 17th Annual Conference of the East Asian Social Policy Research Network, 2-4 July 2021, Lingnan University, Hong Kong (Online)

#### 【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月）】

##### （1）査読付き（4件）

- ・ 阿部彩 (2021) 「祖父母世代の貧困と孫の BMI と抑うつとの関係：東京都「子どもの生活実態調査」の分析」『日本公衆衛生学会誌』68(5), p.339-348. <https://doi.org/10.11236/jph.20-074>
- ・ 阿部彩・川口遼・梶原豪人 (2021) 「子どもの医療費軽減制度と子どもの健康」『医療と社会』Vol.31, No.2, pp.303-318 <https://doi.org/10.4091/iken.2021.003>
- ・ 梶原 豪人・近藤 天之・栗原 和樹 (2021) 「自治体による子どもの貧困実態調査の全国的把握」貧困研究会『貧困研究』No.27.
- ・ 梶原豪人・栗原和樹・小山宰・近藤天之・瀧澤宏直・湯承晨・張秀賢・阿部彩「日本の高校生のフード・インセキュリティの要因分析～貧困との関連に着目して～」『社会政策』13(2), p.102-114.

##### （2）査読なし（4件）

- ・ 阿部彩 (2021) 「新型コロナウイルス感染症拡大による子どもへの影響」貧困研究会『貧困研究』No.27, p.27-39.
- ・ Zhou, Yanfei & Abe, Aya (2022 upcoming) “Inequality and the impact of COVID-19 in Japan,” Oxfam Asia ed. *Inequality and the Impact of COVID-19 in Asia*, Bangkok: Oxfam Asia.

- ・山本直子(2021)「新型コロナウイルス感染拡大による外国籍父母の就労への影響」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.23.
- ・阿部彩(2022)「学生の貧困とアルバイト」東京都立大学子ども・若者貧困研究センター Working Paper Series No.24.

### (3) その他 ( 0 件)

#### 【競争的研究費への応募状況】

- ・2022年度 基盤研究(S) (応募済) ⇒ 採択内定(2022/4/26)
- ・2022年度 学術変革(A) (応募済) ⇒ ヒアリング対象(ヒアリング日程 2022/5/13)

#### 【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・科研費 挑戦的萌芽研究「コロナ禍の子どもへの影響の分析」 (2021年度～2022年度)

#### 【受賞等】

- ・なし

#### 【その他社会貢献】

- ・公開シンポジウム「コロナ感染症拡大の子どもへの影響」を開催(オンライン)参加人数:171名
- ・子どもの貧困研究のフロンティア定例学術研究会の開催  
(2021年度4月、5月、6月、8月、9月、10月、1月、2月の計8回)参加人数計:775名

#### 【公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等】

##### (1) 国会参考人・ヒアリング等

- ・衆議院内閣委員会(2021/4/8)、
- ・内閣府「「貧困状態の子供の支援のための教育・福祉等データベースの構築に向けた調査研究会ヒアリング」(2021/7/9)

##### (3) 各種委員等

- \*厚生労働省 社会保障審議会生活保護基準部会 委員 (阿部彩)
- \*足立区 子どもの貧困対策検討会議 委員 (阿部彩)
- \*大田区 おおた子どもの生活応援プラン推進会議 委員長 (阿部彩)

##### (4) 政策提言等 (※自治体等への政策提言や知見の提供には「・」を「\*」とすること。)

- \*東京都大田区
- \*東京都足立区
- \*沖縄県

## 【研究成果による特許等の産業財産権の出願・取得状況】

(産業財産権の種類, 名称, 出願番号, 出願年月日)

・なし

## 【研究分担額】

期間	研究費の種類	研究課題名	代表者/分担者	総研究費(千円)
2017-2021	基盤(B)	「「貧困学」のフロンティアを構築する研究」	代表者	12,500
2018-2021	JST RISTEX 提案公募型	「子どもの貧困対策のための自治体調査オープンデータ化手法の研究」	代表者	15,950
2019-2021	挑戦的研究 (萌芽)	「貧困とジェンダーの視点に基づく高校生アルバイト就労の実態解明と支援策の検討」	分担者 (研究代表: 大石亜希子、 千葉大学)	1,000
2019-2021	厚生労働行政推進調査 事業費	「児童福祉施設における栄養管理のための研究」	分担者 (研究代表: 村山伸子、 新潟県立大学)	400
2021~2022	挑戦的萌芽	「コロナ禍の子どもへの影響の分析」	代表者	6,240